2019年9月17日付 愛媛新聞

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ㊸

他城と誤認 模写重ねる

伊予甘崎城図

芸予諸島の海城「甘崎城」の藤堂高虎時代の様子を描いた絵図＝江戸時代、県歴史文化博物館蔵

瀬戸内海の沿岸や小島には、かつて多くの城が築かれていた。甘崎城（今治市上浦町）もその一つで、大三島の東岸沖にある小島（古城島）全体を城郭化し、南に急流の鼻栗瀬戸、北に安芸国（広島県西部）との国境を臨む、芸予諸島の要衝に位置する海城だ。

戦国末期には来島村上系の村上吉継の城だった。関ケ原合戦後に伊予半国の大名になった藤堂高虎は、今治城を築き始めると同時に、安芸福島領の警戒や芸予諸島の要衝管理のため甘崎城を改修し、支城とした。本図はこの藤堂時代の甘崎城を描いた絵図であることを物語る。

近世初頭に廃城となる甘崎城。かつて要衝を管理した海城の往時の姿をしのばせる一枚である。

（専門学芸員・山内治朋）

〈月2回掲載します〉

× ×

伊予甘崎城図は県歴史文化博物館の特別展「瀬戸内ヒストリア」（21日～11月24日）で、イラストレーター香川元太郎氏によるイラスト原画「伊予甘崎城」と合わせて展示予定。

藤堂高虎が島の周囲に石垣を巡らせ瓦ぶきの建物を築き、近世城郭化したことは有名で、現在もその痕跡を見ることができる。1691（元禄4）年に江戸へ参府したドイツ人医師ケンペルらも、航行中に海にそびえる石垣を目にした。本図にも島を取り巻く石垣が描かれ、南東に「大手」、南西に「裏口」の枡形（ますがた）門を描き、北には「船入」も描く。

本図の島・石垣・海岸線など城の輪郭的特徴は「主図合結記」、浅野文庫蔵「諸国当城之図」、尊経閣文庫蔵「諸国居城図」などに所収の「宇和島」図によく似ている。「宇和島？」と首をひねるかもしれないが、実は本図の裏にも「伊予板嶋城之図」とある。つまり、これらの絵図は、甘崎城を宇和島城（板島城）と誤認しているのだ。

これらの他にも、甘崎城を宇和島城や松前城と誤認した図が散見される。こうした城絵図は、江戸時代に軍学研究などの目的から数多く製作され、模写などで先行図が踏襲されていくことも多い。宇和島城と誤認されたまま模写等が重ねられたとみられ、本図もこれらの系統につながる一枚だろう。

一方、文字情報は、甘崎城図としてよく知られる浅野文庫蔵「諸国古城之図」所収「天崎」図との共通点も多い。本図成立までの背景に、複数の素材が関係し

掲載許可番号：d20230301-04